

農作物技術情報 第12号 (2) 水稻

平成11年9月20日発行

発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部

編集 岩手県農業研究センター専門技術員室

純情ネットファックスボックス番号3002 (電話0197-68-4501)

水稻の登熟は県全体で平年より10日以上早まっており、一斉に刈取り適期に達します。今後、天気はぐずつき、気温が高い日が続く見込みであり、刈り遅れによる品質の低下が懸念されます。天気の晴れ間を逃さず、すみやかな刈取り・乾燥を行ってください。

乾燥にあたっては胴割れの発生防止を最重点とし、モミのすみやかな搬入にこころがけ、急乾を避け、高品質で食味の良い米の生産につとめて下さい。

また、作業が重なる時期ですので農作業の安全に十分注意し、ゆとりある計画作業と安全確認につとめて下さい。

1 刈取り適期について

- (1) 県全体の成熟期の盛期(50%の水田が成熟期に達した時期)は9月16日前後となる見込みであり、平年(9月27日)より10日以上早まっています(表1, 2)。

「かけはし」では9月上旬から適期に達しています。県南部の「ひとめぼれ」でも黄化が進み一斉に刈取り適期に達することから、例年より短期間で作業する必要があります。

- (2) モミの黄化が80~90%の時期でモミ水分が25%以下になった時期が適期です。

すでに、かなり黄化が進んでおり 過熟になっている水田も見られます。

全県での刈取り盛期が9月23日を越えると品質低下のおそれが高くなります(表3)。

- (3) 本年は、カメムシ類が早期から水田に侵入しており発生が多いこと、内穎褐変症が散見されること、割れモミが散見されることなどから、刈り遅れによる着色粒などの発生が懸念されます(表4)。

また、今後、ぐずついた天気が続き気温は平年より高い見込みであり、刈り遅れによる穂発芽粒、胴割れ粒の発生が懸念されます。

本年は気温が高い時期の登熟となっており、例年に増して品質低下への注意が必要です。

2 計画的な刈取りについて

- (1) 天候(盛岡地方気象台による予報)

前線が東北地方に停滞するため、雨の降る日が多くぐずついた天気となる見込みです。最高気温は平年並みから高く、最低気温は高い見込みです。

- (2) 最近の断続的な降雨によって圃場が乾かず刈取り作業は滞っています。

天候が回復した9月17日(金)以降から本格的な刈取り作業に入っていますが、少しでも早く刈取りして品質低下を防止して下さい。

- (3) 天気がぐずつく見込みですので、多少田面に滞水があっても、作業可能な圃場から、すみやかに刈取り作業を行ってください。

- (4) 排水の不良な圃場や粘質土では水尻を深く掘り開け、排水を促して下さい。

- (5) 平年の晴れ日数は2週間のうち約7日(50%)ですが、天気予報によれば雨の日が多い見込みです。思うような刈取り作業が出来ないことをあらかじめ考慮し、開始時期を早めて余裕のある作業計画を組むことが大切です。

- (6) 倒伏は平年より少ないものの、一部の圃場ではすでになびきや著しい倒伏が見られます。今後、台風等により一気に倒伏がすすむことが懸念されます。

表1 刈り取り作業の目標（県全体のまとめ）

	成熟期（見込み）			刈り取り作業の目標			
	始 期	盛 期	終 期	始 期 (10%)	盛 期 (50%)	終 期 (90%)	期 間
本 年	9月12日	9月16日	9月23日	9月18日頃の見込み	9月23日を目標とする	9月29日を目標とする	12日間を目標
平 年	9月21日	9月27日	10月2日	9月29日	10月6日	10月14日	16日間
差	9日早い	11日早い	9日早い	(11日早い見込み)	(13日早い目標)	(15日早い目標)	(4日短かい)

表2 作況圃場における本年の成熟期（農業研究センター）

調査場所	品種名	年 次	出穂期	成熟期	登熟日数	平年との差
銘柄米開発研究 （江刺市）	ひとめぼれ （稚苗）	本 年	8月2日	9月13日	42日	15日早い
		平 年	8月9日	9月28日	50日	-
水田作研究室 （北上市）	あきたこまち （稚苗）	本 年	8月4日	9月11日	38日	-
		昨 年	8月11日	9月22日	42日	-

表3 地域別刈り取り適期の目安

地 域 名	出穂盛期	登熟積算温度 と到達日		
		1,000	1,050	1,100
盛岡	8月3日	9月16日	9月19日	9月22日
紫波	8月2日	9月15日	9月17日	9月20日
花巻	8月4日	9月16日	9月18日	9月21日
北上	8月2日	9月18日	9月21日	9月23日
水沢	8月3日	9月15日	9月17日	9月20日
江刺	8月4日	9月17日	9月20日	9月23日
一関	8月4日	9月14日	9月17日	9月19日
千厩	8月3日	9月14日	9月17日	9月20日
大船渡	8月5日	9月18日	9月21日	9月24日
遠野	8月6日	9月20日	9月23日	9月26日
釜石	8月5日	9月17日	9月20日	9月23日
宮古・岩泉	8月4日	9月18日	9月21日	9月23日
久慈	8月1日	9月14日	9月16日	9月19日
二戸・軽米	8月3日	9月18日	9月21日	9月24日
岩手	8月6日	9月23日	9月27日	10月1日
湯田・沢内	8月10日	9月19日	9月22日	9月25日
県 合 計	8月4日	9月16日	9月19日	9月22日

表4 出穂後日数と立毛中の発芽粒発生割合（平成9年 県北研究所）

暦 日（月日）	9/01	9/08	9/11	9/17	9/22	9/26
出穂後積算気温（℃）	732	874	933	1,022	1,104	1,157
期間中降雨日数（日）	5	2	2	5	2	3
発芽粒割合（％）	0.0	0.0	0.8	0.6	6.4	6.0

注）成熟期は9月14日であった。品種は「かけはし」を用いた。

3 高品質・良食味米生産のための乾燥・調整

（1）急激な乾燥を避ける（「胴割れ防止」を最重点とすること！）

乾いた稲が雨や露にぬれ、急激に吸水すると胴割れが発生しやすくなります。さらに過乾燥や高い温度での乾燥も胴割れの原因になります。

（2）収穫後の生モミはすみやかに処理する

生モミを放置しておくとも微生物が急激に繁殖して変質米（ヤケ米）の原因になります。

（3）高水分モミの乾燥はていねいに行う。

（4）調整作業は整粒歩合を確認しながら行う

ライスグレーダーのふるい目は1.9 mmを用い、整粒歩合を確認しながら流量を調整して下さい。

4 安全な農作業について

- （1）危険個所の確認や、作業者同士の連絡を十分に行って下さい。
- （2）作業機の農道から圃場への出入りは無理のないよう十分に注意して下さい。
- （3）作業機の夜間の道路走行にあたっては蛍光反射板の設置などにこころがけて下さい。